

第2学年 音楽科学習指導案

日 時 平成28年〇月〇日 (〇) 第〇校時
対 象 第2学年〇組〇名
学校名 〇〇立〇〇中学校
会 場 音楽室

1 題材名 「日本の総合芸術、歌舞伎に親しもう」

2 題材の目標

- (1) 長唄や歌舞伎の特徴や魅力について関心をもち、伝統音楽の学習に主体的に取り組む。
- (2) 三味線の音色や唄方の声の雰囲気を感じ取り、歌舞伎の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて鑑賞する。

3 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
①囃子方の音色、三味線の音色や奏法、長唄の発声や歌い方に関心をもち、我が国の伝統音楽を鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	①三味線の音色、奏法による響きの違いや速度の変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら聴いている。
②音楽、舞踊、演技が一体になっている歌舞伎の特徴や魅力について関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	②音楽、舞踊、演技が一体となった歌舞伎の特徴を、その背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付け、理解して鑑賞している。

4 指導観

(1) 題材観

本題材では、長唄と歌舞伎の二つの勸進帳を取り上げて学習を行う。中学校学習指導要領第2章第5節音楽B鑑賞(1)ア「音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。」及び、イ「音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。」の内容と関連している。〔共通事項〕からは、音色、旋律、速度を取り上げる。

18世紀初め頃に歌舞伎の音楽として生まれた長唄は、歌舞伎とともに発展してきた。歌舞伎の舞踊から派生した日本舞踊の音楽としても用いられている。長唄の学習では、実際に唄ってみて、体験的に理解させるようにしたい。また、三味線の実演を行い、和楽器の音色や響きに興味をもたせ、理解を深めさせたいと考える。第1学年で扱った箏曲では、「序破急」や「間」といった、我が国の伝統音楽における特徴について学習しており、関連付けて鑑賞することが期待できる。2学期にはオペラについての学習を行っているため、歌舞伎の学習ではオペラとの比較にも目を向けさせたい。教科書「中学生の音楽 2・3上」(教育芸術社)のP.40においても、総合芸術という記述があり、演劇、舞踊、美術など、総合芸術としての共通点やそれぞれの違いに気付かせ、歌舞伎の中で音楽がどのような役割を担っているのかを考えさせたい。

(2) 教材観

ア 三味線

日本の伝統的な和楽器の中でも、撥の持ち方や楽器の構え方など、箏に比べると曲を弾くのはやや難しいと言える。しかし、様々な奏法から生み出される音色は独特で、演奏する様子も、右手の撥さばきや左手の勘所を押さえる様子など、動きがあることから、中学生にとっても魅力的な楽器であると考えられる。今回は、歌舞伎「勸進帳」では、義経一行が登場する前に演奏される「寄せの合方」と、歌舞伎上演の際には演奏されないが、長唄のみで演奏するときに入ることがある「滝流しの合方」の二つの合方を取り上げる。この二つの合方は、教師が実際に三味線で演奏し、演奏の仕方や音色などを実感できるようにする。

イ 「勸進帳」三世並木五瓶作／四世杵屋六三郎作曲

「勸進帳」は、歌舞伎十八番の一つである。源義経が、兄である頼朝に追われて奥州へと逃げる最中の、安宅の関が舞台である。弁慶と関守の富樫とのやりとりは、歴史が好きで、すでに知っている生徒もいる。山伏に扮した弁慶と質問を次々と投げかける富樫の二人の気迫あふれるセリフのやり取りがある「山伏問答」や、しっとりとした雰囲気のある曲調で、義経と弁慶が心情を表現する「判官御手」が見所である。使用する教材は、教育芸術社教科書「中学生の音楽 2・3上」の「鑑賞用CD」、平凡の友社「中学生の音楽鑑賞DVD」第9巻である。

5 年間指導計画における位置付け

我が国の伝統音楽の学習として、第1学年では、箏曲の八橋検校作曲「六段の調」を学習した。第2学年では歌舞伎と長唄を、第3学年では、雅楽の平調「越天楽」を学習する。

学年	第1学年	第2学年	第3学年
題材名	日本の伝統音楽、箏曲に親しもう。(2時間) 箏曲「六段の調」 八橋検校作曲	日本の総合芸術、歌舞伎に親しもう。(本題材、2時間) 「勸進帳」 三世並木五瓶作／四世杵屋六三郎作曲 長唄「滝流しの合方」 三世杵屋正治郎作曲	日本の伝統音楽、雅楽に親しもう。(2時間) 平調「越天楽」 作曲者不詳
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> 箏の音色や響きを知覚し、箏曲のよさを味わって鑑賞する。 「序破急」など、我が国の音楽の特徴を感じ取って鑑賞し、言葉で説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 三味線の音色や長唄の特徴を感じ取って鑑賞する。 歌舞伎の特徴を、他の芸術と関連付けて鑑賞し、言葉で説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 雅楽の楽器や音色の特徴を理解する。 音楽の特徴を、文化・歴史と関連付けて、理解して鑑賞し、言葉で説明する。

6 題材の指導計画と評価計画 (全2時間扱い)

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	■評価規準 (評価方法)
◆三味線や唄方、囃子方の音色、旋律の特徴を感じ取って聴く。		
1 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ○長唄「勸進帳」を唄い、発声や歌い方の特徴を感じる。 ・長唄「勸進帳」をCDで聴く。 (旅の衣は篠懸の～海津の浦に着きにけり) 	<ul style="list-style-type: none"> ■囃子方の音色、三味線の音色や奏法、長唄の発声や歌い方に関心をもち、我が国の伝統音楽を鑑賞する学習に主体的に取り組む。

<ul style="list-style-type: none"> ・「これやこの～山かくす」の部分を、教科書 P. 43 を参考にして唄う。 ○「寄せの合方」と「滝流しの合方」を聴き比べ、三味線の音色や奏法による響きの違いを感じ取る。 ・教師の三味線による「寄せの合方」の範奏を聴き、奏法による響きの違いを感じ取る。 ・「寄せの合方」をCDで聴く。 ・教師の三味線による「滝流しの合方」の範奏を聴き、奏法による響きの違いや速度の変化を感じ取る。 ・「滝流しの合方」をCDで聴く。 	<p>り組もうとしている。</p> <p>ア①(観察・ワークシート)</p> <p>■三味線の音色、奏法による響きの違いや速度の変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら聴いている。</p> <p>エ①(ワークシート)</p>
<p>◆歌舞伎の特徴を、その背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して鑑賞する。</p>	
<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歌舞伎の特徴や物語のあらすじを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書 P. 40、P. 41 を見ながら、役者や舞台の様子についてイメージをもつ。 ・教師によるあらすじの説明を聞き、物語の理解を深める。 ○歌舞伎「勸進帳」のDVDを視聴する。 <ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎の特徴やよさをワークシートに書く。 ・音楽と演技の関わりや長唄の役割を理解し、ワークシートに批評文を書く。 	<p>■音楽、舞踊、演技が一体になっている歌舞伎の特徴や魅力について関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>ア②(観察)</p> <p>■音楽、舞踊、演技が一体となった歌舞伎の特徴を、その背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付け、理解して鑑賞している。</p> <p>エ②(ワークシート)</p>

7 指導に当たって

(1) ねらいを明確にする視点から

ア 授業の始めにねらいを示し板書する。

イ ねらいを明確にして、分かりやすいワークシートを作成する。

(2) 評価規準を明確にする視点から

ア 評価規準を明確に生徒に示し、生徒一人一人の意見に耳を傾け、その後の活動への助言をする。

イ 鑑賞の能力は観察及びワークシートを使って評価する。具体的な評価方法として、ねらいに沿って音色、旋律、速度などの根拠をもって表現しているものを「おおむね満足できる」状況(B)とする。「十分満足できる」状況(A)として、ねらいに沿って、教師が鑑賞の観点として示した音楽の要素(音色、旋律、速度)だけでなく、音楽から受ける印象や場面のイメージなどについて自分の言葉で根拠をもって表現しているものとする。

8 本時(全2時間中の第1時間目)

(1) 本時の目標

歌舞伎の音楽「長唄」を体験、鑑賞し、その魅力を知る。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点	■評価規準 (評価方法)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎の音楽である、長唄についての学習であることを、教師の説明を聞いて確認する。 ・使われている楽器である三味線について学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時は歌舞伎の鑑賞をするのではなく、長唄の学習であることを確認させる。 ・三味線は実物を見せて、生徒の興味を引き出す。 	
展開 40分	<p>○長唄を味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長唄「勸進帳」をCDで聴く。「旅の衣は篠懸の～海津の浦に着きにけり」の部分聴く。 ・「これやこの～山かくす」を、教科書P.43を参考にして唄う。 ・唄ってみて、気付いたことをワークシートに記入する。 <p>○「寄せの合方」と「滝流しの合方」を聴き比べ、三味線の音色や奏法による響きの違いを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の三味線による、「寄せの合方」の範奏を聴き、奏法による響きの違いを感じ取る。 ・「寄せの合方」をCDで聴く。 ・教師の三味線による、「滝流しの合方」の範奏を聴き、奏法による響きの違いや速度の変化を感じ取る。 ・「滝流しの合方」をCDで聴く。 ・ワークシートに記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「寄せの合方」以後は、教科書P.42を使用する。 ・模範演奏を聴きながら、旋律線を追っていくように指示する。 ・唄がない、楽器だけによる合奏の部分で、三味線の聴きどころの一つであることを伝える。 ・三味線の奏法の簡単な説明をするとともに、音色の違いを感じ取らせる。 	<p>■囃子方の音色、三味線の音色や奏法、長唄の発声や歌い方に関心を持ち、我が国の伝統音楽を鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>ア①(観察・ワークシート) 〔評価するポイント〕</p> <p>A：発声、言葉の発音、旋律の動きなど、長唄の特徴についての記述が具体的な内容である。</p> <p>B：難しかった部分や興味をもったことなど、長唄の特徴について記述している。</p> <p>C：長唄の特徴について、特徴ではなく感想を記述している。</p> <p>《Cとされる生徒への手だて》 長唄の特徴について考えるように促す。</p> <p>■三味線の音色、奏法による響きの違いや速度の変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら聴いている。</p> <p>エ①(観察・ワークシート) 〔評価するポイント〕</p> <p>A：三味線の音色、奏法による響きの違いや速度の変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取り、さらに囃子方との関わりについて記述している。</p> <p>B：三味線の音色、奏法による響きの違いや速度の変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気について記述している。</p> <p>C：三味線の音色や奏法についての記述が曖昧で、雰囲気が感じ取れていない。</p> <p>《Cとされる生徒への手だて》 「何が」、「どのように」など、要</p>

			点を整理するように支援する。
まとめ 5分	・歌舞伎「勸進帳」の登場人物と簡単なあらすじを聞き、次回への見通しをもつ。	・「滝流しの合方」は歌舞伎の舞台では演奏されず、歌舞伎役者による舞（まい）があることを伝える。	

(3) 板書計画

<p>「勸進帳」</p> <p>歌舞伎の音楽「長唄」の魅力を知ろう</p> <p>主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・唄について ・三味線について <p>「寄せの合方」と「滝流しの合方」</p>
--